

写真家ノートブック

上田竹翁

光と影の特性 自然の美と純美学の所理は、光、蔭および色を補足する以外に普通の処理なく、これを除外すれば構成もなく、正確に物体を顕しえず。G.Baldwin Brown.

光、蔭および影 光 Light、蔭 Shade および影 Shadow の間には著しき関係あり、蔭は光より暗く、影は蔭よりなお暗し、光の特性を除けば暗黒に何らの問題なし。自然に投じたる最も暗き蔭は若干の光あり、時々不同を顕せども、投じたる影は全く暗黒と見え、全く光を欠くものとする。

蔭と影を混同すべからず 例えば光が小家の一侧に投ずるとせば、その他の面は直接の光を受けず、これを蔭という。蔭は陰画 Negative の性質を備う。光はこの部分より拒まれ、蔭に光を存在せしめず。同時に小家全体は地上あるいは付近の壁その他に蔭を投ず。

自然の光と暗黒 自然経済的なり、必要なるところにのみ光と暗黒を与え、またこれより巧みに配置せんとす。Hunt,

光と蔭 性質上蔭にはこれに手を触れるを得れども、光の上にこれを置くべからず。自然は光を加えて蔭を残せども、われわれはクレヨンあるいは鉛筆をもって蔭を加え光を残し（白紙上に）得べし。蔭なき白紙は光あらず。光に注目せしむべき蔭なきをもってなり。絵は各々暗きところと光りどころあり。Hunt,

蔭は絵を浮きあがらしむ 例えば平面あるいは白紙上に投ずる光輝は、各方面平等に分布す。その紙を湾曲せしむれば、ある部分は光に向かい他方は光に反くものとする。前者は光り後者は暗し。故にこれを一平面と見るべからざるなり。

蔭の変化にて絵の局部を分離せしむ 蔭の変化とコントラストによりて絵の平面に変化を与え得べし。すなわち前景、中景および極度遠景等の連絡を生ぜしむ。例えば前景に農家、中景には樹木一と叢、遠景には丘陵の上に雲あるものは、農家へ日光の照る側と蔭の側はその局面を凸起せしめ、農家は背後一帯の樹木より白く、樹木は暗きゆえ、農家は中景より距りたる感じを与え、これと同様に丘陵は樹木より遠く丘陵は、天空と雲の前にあらしむ。

形状明白なる蔭 蔭の形状はその輪郭を顕すのみ。たとえば円筒形の構造を示すに二本

の平行線を描くに過ぎざれども、これに蔭を与れば凸形とも凹形ともなし得べし。鶏卵形は茶匙の一端と同形なれども、これに蔭を与れば意のままに凹凸を作り得べし。長楕円の輪郭は或るものの構造を示すに適す。しからざれば遠近法にて円形を示すものなり。この輪郭に正しく蔭を与れば、鶏卵と同様の球体ならしむるを得べし。

明暗を有し各種の形状あるもの 目的物の異なる部分は、光の方向に異なる角度を有するがゆえに、光輝の度にも異なる反射をなすものなり。

蔭と反射（水に映る蔭）を混同すべからず 水面に樹木、小舟その他の蔭と語るのは珍しからざるなり。

(1) 反射は滑らかなる面——水、金属、湿りたる砂地その他に構成せらるるのみ。面が滑らかなるほど蔭は乱さることなし。金属板、他のものより光沢あるものの一部、あるいは清浄なる水面、塵埃の幕層を有する水面等の反射力には、各等差あるものなり。故に反射を生ずるに都合よき状態は、蔭を受るに不都合なるものにして、両者はともに見受けること稀なれども、時々共に存することあり。

(2) 反射は目的物の絵を顛倒せしむるものなり

(3) 反射の位置は観者の移動、あるいは反射面の動揺によって変化する。投じたる蔭は観者の位置とは独立してその位置を変えず。

(4) 反射はいかなる光に依りても構成せられ、直接あるいは放散光にても構成す。蔭は光輝の強さと方向に比例して輪郭の形状と濃淡を変じて投ず

(5) 反射は光の方向とは独立し、蔭は全く光の方向に依るものなり。

(6) 反射は虚にして、影は実なり。すなわち紙上に影を受るを得て、多くの人と同時に影を認め得るは、その実在を示すものなり。反射は一定の位置以外より認むるを得ず。観者の位置を換ゆれば、同時に同反射画像を認めがたし。

投ずる影の重要な特性 蔭は濃淡ありて影を投ずる目的物に近づくに従うて、最も暗し。

影は陰画の性質あり 光が一定の場所に投ずるを阻止せられるより生ず。影は反射光の為に薄くせられる事少なからず。すなわちある接近したる光を反射する物体、白壁より影の部分に光を反射する事あり。

影は観者より距たるに従うて、明らかに強さを変ず 目に近ければ影は暗し、すなわち明暗の対象は前景には最も強し。

影の構成は影を投ずる目的物の構成、落下する光の方向および影を投ずる表面の性質等に依る。たとえば真っ直ぐな棒も湾曲面に影を投ずれば湾曲を生ず。ゆえに影の構成はこ

れが投ずる表面の構成を示すものなり。

影を投ずる物体とこの投じたる影を受ける面が、同価値あるいは同色調なるときは、影は蔭より暗きものなり。

影は光が強きほど輪郭の鋭利を増加し、晴天の日は曇りたる日より影を明確ならしむ。

影は光の強さに応じて濃度を変化すといえども、周囲の強き光にて対照せらるる理由によりて、影は強く濃黒とならざることあり。強き日光にて投ずる影も多くの反射光を受るがために曇天より影の薄き場合あるものとす。

輪郭 自然の各事物は限界を有する以外に輪郭を有せざるは事実なれども、その限界は確定したる形体あり。自然における各事物には場所を有するものと、有せざるとの二種に區別し得べし。これら二種の場所の間には限界あり、自ら場所を有せざるものは室内を占有せざるとも、いずれも構成を有せり。John Collier,

輪郭を描くには人物あるいは物体をもれなく、これを一面とし外形のみを描くにあり。

美術と自然の緻密 スケッチ或いは絵に過度に細かき模倣は少なきに過ぎるより、その技巧に害あること少なからず。芸術的人像は最も強く直ちに目を引く特別の目的物を再顕せしむる結果より生ず。写真の人像は微細なる特性を過度に再顕せしむるをもって、まったく酷似の印象を作るにたびたび欠点あるにかかわらず、完全なる顔の輪郭を与ゆ〔るものな〕れども、写真はたびたび有益の結果となる汚点のごとく、微細に樹木の葉を描写す。ゆえに写真において、檜、榆および、他の葉簇^{はむら}の再顕するところを弁別するは容易にあらず。赤裸々に特質を明らかにするよりむしろ、注目すべき特性の描写を示すよう、鑑識と判断をなすにあらざれば、葉簇の特性ある状形を示し得ざるものなり。Walter Crane.

緻密の制限 建築物あるいはいかなる他の目的物に成功すべきすべてのことは明らかに自然の思想を顕すにあり、建築物に新旧いずれも、石の組織が正しきも形状不規則なるも、これを示すに十分に運ばれたるとき、一個づつ石を描くは全体の描写に重要なものにあらず、ゆえに観者は構造に関して暗示せらるるものを認むるのみ、正しき再顕は満足なる類似に必要を感じず

通則として色はあまり多からんより目的物の特性を与えること少なきに過ぎるを良しとす。J.D.Harding.

緻密あるいは焦点、実用ノート 近きものを際立たしめんとすれば遠き目的物の緻密を著しく和らぐべし。ゆえに葉叢より組織せらるる目的物において、遠き樹木の葉はその輪郭は目に近く接するをもって幾分和らげざるべからず、この光学の原則に依りて近き前景

に最も顕著となるをもって、二十ないし三十ヤード以内にあるときは最も注意を要す。しかれども極度の遠離もこの規則に従うべし。一つの山が他のものより分離して見ゆれば、多くの距離の輪郭と緻密は近きもの接近せしむるをもってこれを優美に取り扱うべし。

Green.

遠き目的物 蔭と光の間の相違は、近きものよりも遠き目的物に急ならず強さも少なし。遠き目的物の色調の少しの相違を過大ならしむるは、特に単色においてほとんど不可能なり。空気遠近法を顕すべからず。T.J.Ellis.

(『藝術寫眞』大正13年(1924年)4月号より。ただし、表現は現代仮名づかいに改めた。なお、時折あげられている外国人の名前は、主にラファエル前派からアーツ・アンド・クラフト運動の頃までの画家の名である。)

(「上田竹翁」の伝記、思想、その他についての照会は、mm9333@msd.biglobe.ne.jpまで)